

七十七銀女川支店遺族・田村さん 従業員の命 最優先に

東日本大震災の津波で七十七銀行女川支店（女川町）の行員だった長男健太さん＝当時（25）＝を亡くした大崎市の田村孝行さん（64）が20日、大和町内で講演した。企業関係者約30人に従業員の命を最優先に考える重要性を説いた。

田村さんは、健太さんが近くの高台への避難を望んでいたのにもかかわらず、支店長の指示で支店屋上に避難し、犠牲になったと説明した。防災対策の不備が悲惨な結果を

大和で企業関係者に講演



企業防災の在り方について講演する田村さん

招いたと指摘し、「普段から従業員の意見を聞く風通しの良い職場づくりや事前の備えが災害時の的確な判断につながる」と訴えた。

講演は、大衡村に立地する企業でつくる「大衡村内工場等連絡協議会」が研修会として開いた。会長で、半導体を製造するラピスセミコンダクタ宮城工場の渋沢勝彦工場長（63）は「経営層の意識が企業の安全に関わることを痛感した」と話した。